



阪神大震災級の揺れでは、縦型のピアノは3秒で倒れる。危うさを思い知ったのは、1千棟以上が全壊し、のちに建築基準法改正につながった1978年の宮城県沖地震だ。倒れたピアノで子供がけがをしたと聞き、悔やんだ。調律に行く団地の狭い部屋で、縦型ピアノの前に布団を敷く子供を見ていた。

兵庫県の研究所の協力を得て、3年がかりで耐震装置を開発した。後輪の台座が衝撃で割れ、重心が後ろに移って前に倒れない仕組みだ。

阪神大震災が実証した。1995年1月17日。神戸市東灘区の自宅と工房は全壊したが、がれきの街を訪ね歩くと、装置をつけたピアノは一台も倒れていなかったという。

本業はピアノの販売・修理・調律。82年に父から継いだ社員8人の会社は、米国スタンウェイ社製の年代物しか扱わない。「ピアノというより芸術品」を国内外で550台以上買い付け、販売した。プロのピアニストも「一流の名器ばかりがそろろう」と信頼を置く。

品質にこだわる職人気質のため、「ピアノの弱点を知ったら、見て見ぬふりはできない」。耐震装置は2007年、実物大の建物を揺らす兵庫県三木市の大型震動施設でも安全性を確かめられた。

神戸市は震災後、279の小中学校・幼稚園に設置した。大きな地震が起きるとび注文が増えることが心配だ。「のと元過ぎれば熱さ忘れるでは困る。起きてからでは遅いんや」文・堀江昌史 写真・新井義頭